一般質問通告内容

（令和６年定例会６月会議）

通告番号	質問者	件名と質問の要旨
１０	貳又　聖規 （議席番号 １０番）	１．多文化共生のまちづくり （１）町制施行70周年の記念事業について ①　７つの実施事業の進捗状況及び町が行うイベント共催などの冠事業の状況、その事業目的と効果について町の見解を伺います。 ②　多くの先人が築き上げた歴史や文化を受け継ぐ中で、アイヌ新法制定運動や国連での世界の先住民族との活動に尽力した故野村義一氏の功績を後世に引き継ぐことが重要であるが、町の考えを伺います。 （２）アイヌ民族の尊厳の保持と、文化・歴史の次世代への継承により、多文化共生が実現するまちについて ①　アイヌ施策推進法（アイヌ新法）の施行から５年を迎える中で、アイヌ文化の理解促進・啓発普及に係る事業の評価と成果、課題について伺います。 ②　過去５年間におけるアイヌ政策推進交付金の評価と成果、今後の方向性について、町の考えを伺います。 ③　国連教育科学文化機関（ユネスコ）はアイヌ語を消滅的危機言語としており、アイヌ新法の理念「アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される社会の実現」には民族の魂ともいえるアイヌ語の復興が重要である。ナショナルセンターがある町として先頭となりウポポイとの連携等により、言語復興に取り組むべきと考えるが、国に対しての環境整備の要望の状況と白老町の担うべき役割をどのように捉えているか伺います。 ④　ハワイ州では消滅しつつあるハワイ語の言語復興対策として、1986年から幼児期から学べるハワイアンのイマージョンプログラムと呼ばれるハワイ語一貫教育プログラムを導入しており、現在では、若者同士がハワイ語で語り合える状況になっている。国や北海道との連携のもとイマージョンプログラム導入に向けた調査研究が必要と考えるが、町の見解を伺います。

通告番号	質問者	件 名 と 質 問 の 要 旨
１０	貳又　聖規 （議席番号 １０番）	⑤　白老町アイヌ施策推進地域計画では、「アイヌ民族の伝統及びアイヌ文化の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が喫緊の課題」とされ、次世代を担うアイヌ文化伝承者の人材育成のさらなる強化が求められている。 　平取町や白糠町の地域計画には、町内外の学校で開催されるアイヌ語学習の講師派遣並びに中高生を対象とした海外先住民族の文化を学ぶ研修事業が盛り込まれている。 　全国各地からアイヌ文化の伝承者が白老に移住する中、ウポポイで働く伝承者や職員に「次世代を担うアイヌ文化伝承者」のあるべき姿や理想の教育環境等の聞き取りを行うなど、人材育成施策への反映が望まれるが、町の考えを伺います。 ⑥　木彫り熊の伝承者の現状と課題、技術伝承に向けた町の考えについて伺います。 （３）多文化共生のまちを掲げる本町の地域性を踏まえて、外国文化と接する機会を児童や生徒に提供する国際交流員の配置について、先進地の東川町や白糠町の事例から導入に向けた町の見解を伺います。 答弁を求める者　　町　長

通告番号	質問者	件 名 と 質 問 の 要 旨
１０	貳又　聖規 （議席番号 １０番）	２．高齢者とひとり親家庭に優しいまちづくり （１）高齢者に優しいまちづくり ①　本町における高齢者の孤独・孤立による現状と課題を伺います。 ②　国の孤独・孤立対策推進法が令和６年４月１日に施行されたことに伴う町の高齢者対策について伺います。 ③　孤独死対策を取り入れた見守りネットワークの充実に向けた町の見解を伺います。 ④　集落支援員の活動として、高齢者宅への戸別訪問による見守りや買い物などの生活支援並びに困りごとの把握による移動困難者の実態調査が重要であると考えるが、町の見解を伺います。 （２）ひとり親家庭に優しいまちづくり ①　ひとり親は働き方が制限されるため、生活が困窮しやすい傾向にあるとされ、2019年に内閣府が公表したデータでは、日本における子供の貧困率は７人に１人、さらにひとり親世帯となると貧困率はおよそ５割となっている。近年問題となっている経済的要因による子供の教育格差、体験格差の拡大により、貧困家庭の大学進学率、習い事やクラブ活動への参加率は低い傾向にあるとされているが、本町の現状と課題について伺います。 ②　白老町独自の支援制度について伺います。 ③　ひとり親への独自支援として、雨竜町ではごみ袋の減免措置を講じているが、本町の導入の可能性について、見解を伺います。 ④　ひとり親家庭等日常生活支援事業の導入について、町の見解を伺います。 答弁を求める者　　町　長